

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	「FACTFULNESS」
別タイトル	「FACTFULNESS」
作成者（著者）	岩淵, 聡
公開者	東邦大学医学会
発行日	2022.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 69(1). p.66 67.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	論評
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2021_046
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD82355328

「FACTFULNESS」

新型コロナウイルス感染症について、私たちは2年近くも数字や情報に翻弄され続けてきた。スウェーデンの医師であるハンス・ロスリング（1948～2017）は、自著の「FACTFULNESS」の中で過去にエボラ感染症に対して封鎖という拙速な判断をしたことへの自責の念を記している。私たちは新型コロナウイルス感染症も思い込みに陥らないように、真実を冷静に見極めていかななくてはならない。今回、昨年ミリオンセラーになった「FACTFULNESS」について「書評」を記させていただくこととした。

Q1) 世界中の1歳児の中で、何らかの病気に対して予防接種を受けている子供はどのくらいいるのでしょうか？

- A. 20%
- B. 50%
- C. 80%

Q2) 現在、低所得国に暮らす女子の何割が初等教育を修了するのでしょうか？

- A. 20%
- B. 40%
- C. 60%

Q1) 正解 (C)：世界14か国1万2千人に質問したところ正解率20%のスウェーデンを除きすべての国で2割にも満たなかったそうである。ちなみに日本での正解率は6%であった。

Q2) 正解 (C)：日本の正解率は7%、「低所得者」という言葉からの思い込みでAやBを選びがちである。今や世界の人々の多くは中所得層に位置し、多くの女子が初等教育を修了している。

世界的ベストセラーとなった『FACTFULNESS (ファクトフルネス：FACT＝「真実」FULNESS＝「充満・十分」という造語)』では「10の思い込み」を乗り越え、データに基づく世界を正しく見る方法をハンス・ロスリングが解説している。統計に基づくこのような著書は統計方法や参考文献を懐疑的に見る人たちの批判の対象にもなり得る

が、本書では「情報を批判的に見ることも大切」と説いている。FACTFULNESSとは一体何なのか、読み進んでいくうちに彼の意図するところが見えてくる。

わが国の現代社会に目を向けてみよう。ICTの急速な普及により、SNSユーザー数も全世界で45.5億人に達したと言われている。様々な情報が氾濫し、何が「真実」なのか見分けがつかなくなっている現在、信憑性のない情報が拡散し、誹謗中傷から人命をも危険に晒す事件も散見される。「上級国民」と揶揄され、全集中的に強い非難を浴びた高齢ドライバーが引き起こした痛ましい交通事故は記憶に新しい。この悲惨な事故を機に高齢者の運転免許更新について、これまで以上に社会的議論が高まることとなった。運転能力が衰え交通ルールを守れない身勝手な高齢ドライバーが引き起こす交通事故は増えるばかりだから、高齢者は免許証を返上すべきだといった意見も聞かれる。事実、超高齢化社会を迎えている日本での高齢ドライバーの割合は2000年当時37.0%だったのが2018年では56.6%と大幅に増加している。そのため高齢ドライバーの死亡事故率も当然上がるだろうと思いがちであるが、警察庁が公表した2018年の統計データでは、高齢者を含めて全ての年齢層で死亡事故率は大きく減少している。高齢ドライバーが事故を起こしたという報道をよく見かける一方で、高齢ドライバーの死亡事故率は減少しているという統計上の「事実」を認識すれば、実際には「良い方向」に向かっており、「高齢者だからこそ事故を起こす」という決めつけは「思い込み」ともいえる。私たちの生きている現実社会はどうしても「悪いこと」だけに目が向いて、「良くなっている」ことが見えなくなり冷静さを見失いがちである。著者のハンス・ロスリングは「思い込み」によって陥りやすい誤解を私たちが生まれ持つ“本能”として次のように表している。

- ①分断本能：「世界は分断されている」という思い込み
- ②ネガティブ本能：「世界はどんどん悪くなっている」という思い込み
- ③直線本能：「世界の人口はひたすら増え続けている」という思い込み

- ④恐怖本能：「危険でないことを、恐ろしいと考えてしまう」という思い込み
- ⑤過大視本能：「目の前の数字が一番重要だ」という思い込み
- ⑥パターン化本能：「ひとつの例がすべてに当てはまる」という思い込み
- ⑦宿命本能：「すべてはあらかじめ決まっている」という思い込み
- ⑧単純化本能：「世界はひとつの切り口で理解できる」という思い込み
- ⑨犯人捜し本能：「誰かを責めれば物事は解決する」という思い込み
- ⑩焦り本能：「今すぐ手を打たないと大変なことになる」という思い込み

SNSなどで拡散されるインパクトの強いネガティブなニュースは、自分自身の「思い込み」で物事の本質を歪めて捉えられがちである。情報化社会では玉石混淆の情報が溢れかえっており、容易に「真実らしい情報」がいつでもどこでも手に入れられる。そのため、不確実な情報はあらぬ事実を惹起し「思い込み」を刷り込まれる危険性があることを常に認識して、「10の思い込み」に陥らぬようしなくてはならない。私たちは、自分の判断で十分な真実を引き出すための事実を認識する力がこれまでになく求められている。

(東邦大学医学部脳神経外科学講座(大橋):岩渕 聡)

DOI: 10.14994/tohoigaku.2021-046